



# ICT 活用レシピ小・中学校 特別支援学級・通級指導教室編



## 目次



教科等	単 元 名	ページ	活用場面
特別支援学級 生活単元学習	「動くおもちゃ」～コロコロカーを作ろう～	88	A1 B1
特別支援学級 生活単元学習	「オンライン交流会」をしよう	91	C3 C4
小学校 発達障害・情緒障害 通級指導教室	自立活動	94	B1 C4

Google™, Google ドキュメント™, Google スプレッドシート™, Google スライド™, Google フォーム™, Google Jamboard™, Google Meet™, Google Classroom™, Google Earth™ は、Google LLC の商標または登録商標です。

Windows, Word, Excel, PowerPoint, Microsoft Whiteboard は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Keynote, Pages, Numbers, iMovie は、米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。

なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。




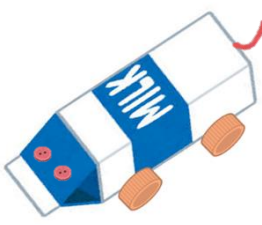


# 「動くおもちゃ」～コロコロカーを作ろう～

## 目標

- 身近な材料を使って、進んで動くおもちゃを作ったり楽しく遊んだりしようとする。
- 自分たちで集めたものの特徴を生かして、動くおもちゃを作ることができる。
- 作ったおもちゃで楽しく遊んだり、遊び方を工夫したりすることができる。
- おもちゃを作ったり、工夫したりする楽しさに気付くことができる。

## 指導計画

過程	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
I	① ②	○身近にある素材を動かして遊ぼう 【身近な素材】 ・はこ ・キャップ ・鉛筆 ・けしごむ など	◆身近にある素材に触れて、動かして遊ぶ活動を通して動くおもちゃ（車）を作りたいという意欲を高める。 <b>活用レシピ①</b> ◎プレゼンテーションアプリで作成した、日常の場面を映した写真や動画を使用し、話し合わせる。また共同編集機能を活用して、話し合いを充実させる。
	③ ④	<div>コロコロよく走る車をつくろう！</div> <p>○集めた材料でおもちゃを作ろう</p> 	◆児童生徒の実態に合わせて作成した指示書で、作り方を確認しながら、コロコロカーを組み立てさせる。 ◆各パーツを自己選択できるように材料を用意しておく。 <b>活用レシピ②</b> ◎プレゼンテーションアプリで作成した手順書を活用し、自分で確認しながら「コロコロカー」の組み立てをする。
II	⑤ ⑥	○作ったおもちゃで遊ぼう 	◆課題の視点を意識させて、出来上がったおもちゃを動かして遊ばせる。 【遊び方（例）】 ・坂道を下らせて遊ぶ。 ・友達の車と交換して遊ぶ。 ◆遊びの中で気付いたことや考えたことをもとに、作成した作品の修正をしたり、新しい作品を作成したりさせる。 ◎アンケート機能（フォーム）を活用し、作成した作品を撮影・共有し、展示会・鑑賞会を開催する。 ◎アンケート機能（フォーム）で作成した振り返りシートを活用し、学習と評価の積み重ねをできるようにする。

## A 1 教師による教材の提示（10分）

### 活用レシピ①

◎プレゼンテーションアプリで作成した、日常の場면을映した写真や動画を使用し、対話活動に活用する。

使用するアプリ等

「Google スライド」 （「PowerPoint」「Keynote」）

### 【活用の流れ】

①スライド資料を使用する PC 等において、クラウド上で共有させておく。

②挿入機能を活用して、直接資料に印をつけさせる。

③同時に編集ができるようにグループごとにスライドを作成しておく。

A 班

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google スライド」（日常の中にある「コロコロ（転がる）動いているもの」の写真や動画）を学級全体で共有しておく。	・「Google スライド」の共有機能を活用する。 （※クラウド上で共有）
②	動いているものについて「気付いたことや発見したこと」が分かるポイントに図（例：○）等のマークを挿入させる。	・記入方法としては、図・形や吹き出し等の挿入機能を活用する。
③	動くおもちゃづくりに必要な材料について、グループ又は個人で考えたことや話し合ったことを吹き出しに入力させる。それらを学級全体で共有しまとめる。	・グループの意見を入力できるように枠を作っておくと同時に編集・共有することが可能である。

## B 1 個に応じた学習 (30分)

### 活用レシピ②

◎プレゼンテーションアプリで作成した手順書を活用し、自分で確認しながら「コロコロカー」の組み立てをできるようにする。

#### 使用するアプリ等

「Google スライド」 (「PowerPoint」「keynote」)

#### 【活用の流れ】

①スライド資料を使用する PC 等において、クラウド上で、共有させておく。

1, タイヤの材料を選ぶ

丸いキャップ

②表示→プレゼンテーション機能を活用してページを進めたり戻したりして作業の確認をさせる。

③完成した作品の画像を挿入させる。

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google スライド」で児童生徒一人一人のニーズに合わせて作成した「コロコロカー組み立て」手順書を共有しておく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Google スライド」の共有機能を活用する。(※クラウド上で共有)</li> </ul>
②	児童生徒自身で、1人1台のPC等を使用し、手順書のスライドを順番に確認しながら、製作作業を進めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表示にあるプレゼンテーション機能を活用する。</li> <li>・1人1台PC使用</li> </ul>
③	出来上がった作品を写真にとり、スライドに画像を挿入させる。また、編集機能や共有機能を活用して、作成者や鑑賞者のコメントを入力し鑑賞会や作品発表会等につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像挿入機能を活用する。</li> <li>・共有機能を活用する。</li> </ul>



# 小・中学校特別支援学級 生活単元学習



## 「オンライン交流会」をしよう

### 目標

- 発表したいことを考え、話し合いを通して決定することができる。
- 交流会に向けて、友達と協力し合って準備をすることができる。
- 交流会での自分の役割を理解して活動することができる。

### 指導計画

過程	時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT 活用例
I	① ②	○発表したいことについての話し合い	◆見通しをもって活動できるように、交流会までのタイムスケジュールを提示する。	
		協力してオンライン交流会を成功させよう。		
I	③	○交流会の役割分担	◆事前に各校の役割を決めておき、児童生徒の意思を尊重しながら役割を決定する。  ◎役割分担表を共有ドライブに保存しておき、役割の内容を児童生徒が自分で確認できるようにする。	
II	④ ⑤	○自己紹介シートと次第の作成	◆自己紹介カードと次第の作成手順を視覚的に提示する。 <b>活用レシピ①</b>	◎プレゼンテーションアプリを活用し、自己紹介カードを作成する。
III	⑥ ⑦	○交流会の練習	◆発表方法や割り当てられた役割の動きを各自が確認できるよう視覚的に提示する。 ◆校内リハーサルを行い、本番に備えて気持ちの準備ができるようにする。	
	⑧ ⑨	○オンライン交流会	◆自分の役割を意識して活動できるよう、個々の実態に応じた支援を行う。 ◎テレビ会議システムを活用して、オンライン交流会をする。 <b>活用レシピ②</b>	◎テレビ会議システムで画面を共有し、「自分の学校紹介」をする。
IV	⑩	○オンライン交流会の振り返り	◆当日を振り返りながら経験したことやその時の気持ちを想起できるよう交流会の写真等を提示する。 ◎共通の振り返りシートを作成し、共有フォルダに保存することで振り返りを共有できるようにする。	

## C3 協働制作（20分）

### 活用レシピ①

◎プレゼンテーションアプリを活用し、自己紹介カードを作成する。

#### 使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）

#### 【活用の流れ】

①資料を作成する PC 等において、クラウド上に共有しておく。

②作成する際は、児童生徒の実態に応じて、入力方法を工夫させる。

※学校ごとに人数分スライドを作成しておく。

	手 順	ポイント
①	自己紹介カードを作成し、交流会に参加する学校で資料を作成できるよう共有設定しておく。	・共有設定する際、編集者として設定する。
②	各校で自己紹介カードを作成する。	・写真等の素材を用意する。
③	交流会前に完成した自己紹介カードを確認し、一緒に活動するメンバーを知る。	・事前に確認することで見通しをもって活動できる。

## C 4 学校の壁を越えた学習（60分）

### 活用レシピ②

◎テレビ会議システムで画面を共有し、「自分の学校紹介」をする。

#### 使用するアプリ等

「Google Meet」（「Teams」「FaceTime」「Zoom」等）

#### 【活用の流れ】

画面の共有方法（「Google Meet」の場合）

- (1)「画面を共有」をクリックする。
- (2)ウィンドウをクリックする。
- (3)共有したい資料を選択し、共有をクリックする。



- (4)共有を停止する場合は、「共有を停止」をクリックする。



△△小学校



□□中学校



☆☆小学校



〇〇小学校



〇〇小学校の児童が作成した資料を参加しているすべての学校の画面に共有し、説明する。  
離れた場所にいる友達にも写真と音声で分かりやすく説明することが可能になる。

	手 順	ポイント
①	会議参加後に共有したい資料を起動し、画面の共有を開始する。	・発表したい写真を「Google スライド」等にまとめておく。
②	共有した資料の説明をする。	・発表原稿等を作成しておく。
③	画面の共有を終了する。	・発表を聞く時は、マイクやカメラをオフにしておく。





## 自立活動

### 目標

- 認知特性の強みを生かして学習活動に取り組むことで、苦手な部分を補いながら成功体験を積み、自己肯定感をもち。
- 在籍校担任との関わりでコミュニケーション能力とともに意欲を高める。

### 1 単位時間の授業内容（予めテレビ会議システムで在籍校担任とつないでおく）

	時	学習活動	◆指導上の留意点      ◎ICT 活用例
導入	①	○はじめのあいさつ 学習予定を確認する	◆正しい姿勢で挨拶をさせる。 ◆見通しをもてるよう本時の流れを提示する。
	②	○1週間のことについて話そう。	◆この1週間で印象に残ったことを「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」「どう思った」という短作文で書かせる。 ◎通級担当との会話の内容を、タブレットで記録しまとめる。特に「どう思った」の部分が書きにくい場合は表情のプリントやアプリ等を用いて記入する。
認知トレーニング	③	○認知能力「見る」トレーニング	<b>活用レシピ①ー1</b> ◎センターHP(学びの準備体操サイト)の「見る」の「目のたいそう」の動画を見てビジョントレーニングを行う。 ◆実態に応じて目だけではなく体を動かす内容も取り入れる。
	④	○認知能力「聞く」トレーニング	<b>活用レシピ①ー2</b> ◎学びの準備体操の「聞く」認知トレーニングをする。 実態に合わせて8つのコースから組み合わせる。
ソーシャルスキルトレーニング	⑤	○「わかってほしいことを伝えよう」	◆自分の個性や、得意なこと・苦手なことについて友達や担任、家族に分かってほしいことを言葉で伝える。 <b>活用レシピ②ー1</b> ◎在籍校担任とテレビ会議システムでつなぎ、児童が自分の言葉で自分の考えや思いを伝える。 ◆予め、在籍校担任と今回の授業の目的等を伝えておく。 ◆待機室にいる保護者にも参加してもらうことも可能である。
	⑥	○「質問ゲームをしよう」	◆時間を決め、児童、通級担当、在籍校担任が順番にカードの質問に答える。「あなたが落ち着く場所はどこですか。理由も教えてください。」「やさしい気持ちになれる言葉をひとつ教えてください。」といった質問を準備しておく。 <b>活用レシピ②ー2</b> ◎在籍校担任とテレビ会議システムでつなぎ、ソーシャルスキルトレーニング等の学習内容を共有する。
まとめ	⑦	○学習の振り返り	◆今日の学習の振り返りをし、努力したことや頑張ったことについて気付かせ、自信をもたせる。 ◆終わりの挨拶をさせる。

## B 1 個に応じた学習

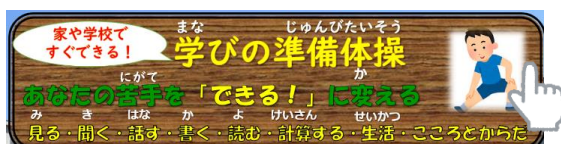
### 活用レシピ①

◎センターHP(学びの準備体操サイト)の動画を見て認知トレーニングを行う  
「見る」の「目のたいそう」・「聞く」の「声をよく聞いてすすもう」の動画やプリント等

### 使用するアプリ等

総合教育センターHP <https://www.center.spec.ed.jp/> (学びの準備体操サイト)  
「見る」・「聞く」動画 YouTube ・サイト内プリント

### 【活用の流れ】



実態に合わせ「見る」「聞く」「話す」「書く」「読む」「計算する」「生活」「こころとからだ」から選択できる。



	手 順	ポイント
①	<p>学びの準備体操 「見る」トレーニング 「目のたいそう」を視聴し一緒にトレーニングをする。</p> <p>※1本の動画は5分以内</p> <p>目のたいそう</p>	<p>・実態によっては目だけの運動だけでなく体を動かす内容も取り入れる。</p> <p>まねっこをしよう</p> <p>よく見て体を動かそう</p>
②	<p>学びの準備体操 「聞く」トレーニング 「声をよく聞いてすすもう」の動画やプリントを基にトレーニングをする。</p> <p>※サイト内の動画やプリントなので在籍学級や家庭でも繰り返し活用できる。</p> <p>声をよく聞いてすすもう</p>	<p>・サイト内のプリントも印刷しておくとうい。</p> <p>迷路 宝探し 地球</p>

## C 4 学校の壁を越えた学習

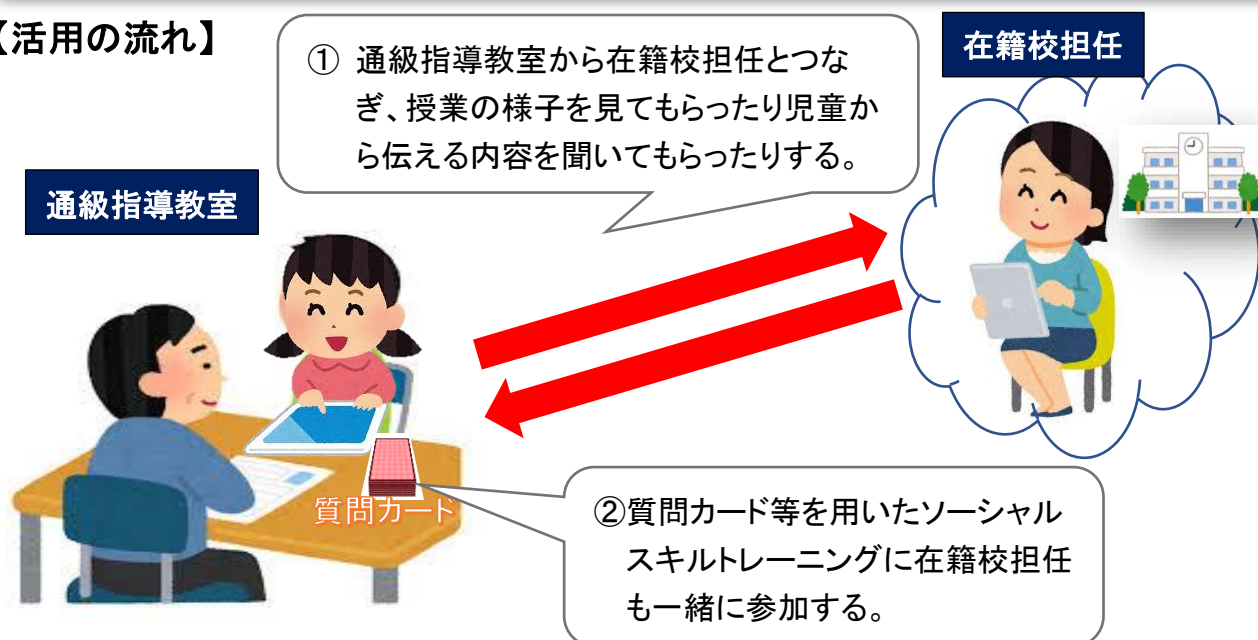
### 活用レシピ②

◎通級指導教室と在籍校とをテレビ会議システムでつなぎ、ソーシャルスキルトレーニング等の学習内容を共有する。

使用するアプリ等

「Google Meet」 （「Teams」「FaceTime」「Zoom」等）

#### 【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	<p>「わかってほしいことを伝えよう」</p> <p>テーマを設定し、在籍校担任とテレビ会議システムでつなぎ、児童が伝えたい思いや考えを発信する。</p> <p>【テーマの例】得意なこと・苦手なこと、理解しやすい勉強の方法、今頑張っていること等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍校担任や周りの友達、家族等に伝えたいことを、通級担当がサポートしながら自分で伝えられるようにする。</li> </ul> <p>※場合によっては待機室にいる保護にも参加してもらうことも可能。</p>
②	<p>「質問ゲームをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍校担任とテレビ会議システムでつなぎ、児童、通級担当、在籍校担任（保護者）が順番にカードの質問に答える。</li> </ul> <p>【質問の例】「あなたが一番落ち着く場所はどこですか。理由も教えてください。」「優しい気持ちになれる言葉を一つ教えてください」等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しみながらやりとりをすることで、児童自身のコミュニケーション能力や意欲が高まる。</li> <li>・ 在籍校担任（や保護者）とも通級指導教室での学習内容を共有することができ、今後の指導や支援に生かすことにつながる。</li> </ul>